
奴隸

seiko

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奴隷

【Nコード】

N1685K

【作者名】

seiko

【あらすじ】

めちやくちや科学が進んだらどうなるか。
それがテーマです

ある日の朝。家のインターホンが鳴った。私が玄関の扉を開けると、1人の男が立っていた。

「おはようございます。細胞提供の件ですが……」

「ああ、あれか」

私は、裾をまくって相手に腕を突き出した。男は肩に下げた白いバツクから、注射器を取り出した。そして、躊躇することなく腕の血管にそれを刺し、血を吸い出した。痛みとかはなかった。そういう仕組みの針でできているらしいが、まあ興味は無い。

「ありがとうございます。では、これで失礼します」
そういつて、男は立ち去っていった。

私は扉を閉め、書斎のいすに腰掛けて、窓から空の雲を見つめていた。

なんとも退屈だ。

あの血は、クローンを作るために使うらしい。クローン技術が発達したことによって、女性が妊娠しなくても、子供ができるし、遺伝子を組み替えれば男女どちらにでもなれるらしい。

かくゆう私も、その技術によってつくられた人間だ。

作られた人間は、成長を早める機械の中で、およそ12歳ほどまで成長させる。そして、また機会を頭に取り付け、わずか10分で中学卒業レベルまでの知識をつけさせる。また、遺伝子の組み換えの技術を使い、それぞれの知能、運動能力、身長などはほとんど変わらないようにできる。

個性とか、そういうものは全く無い。

ただ、世界には、一部の真人間と呼ばれる人々がいて、その人たちは、普通に生まれ、普通に過ごし、普通に個性を持ってくる。そういう人々が、世界中の人間たちを動かす。つまり、私たちは彼らの奴隷のようなものだった。

そう思うと、普通の真人間ならいつくのだろうが、全く、最近の科学と言うものはすばらしい。

私たちは、そういうことではストレスは感じないようになっている。だから、別に今の状況を変えようとか、そうは思わない。

よくできてるもんだな。私が、なんとなく皮肉っていると、いつの間にか出社の時刻になっていた。私は、急いで支度をした。

会社では、20人ほどが同じオフィスで働いていた。私がいつもどおり自分の席で仕事をしていると、後ろから女の声がした。

「ねえ、今夜、一緒にご飯でも……」

「ああ、いいよ。そうしよう」

「うん。ありがとう。じゃあ、おわったら玄関でまってるわ」

その女は、別になんてこと無い女だった。不細工でも美女でもなく、中肉、髪の毛は肩にかかるぐらいの長さで、別に魅力的というわけではなかった。しかし、どうせ皆がそういう人間だった。だいたい、大差ない。

そして、その日の夜、その女と少しだけ飲んだ。そして、普通に意気投合したので、家に誘ってみた。

しかし、断られてしまった。まあでもいいさ。これが、おそらく普通なんだろう。

それから、その女とは普通に仲がよくなり、同棲してみないかという話になった。そして、女はこちらの家に来て、同棲生活が始まった。

ただ、それは同じ部屋で過ごすだけの仲だった。今の私たちには、子供をつくる能力は失われて、別に愛というものも感じない。ただ、なんとなく恋人の雰囲気を感じたいだけだった。

ある朝、女に朝食を作ってほしいと言った。それが、恋人らしいと思った。だが、私たちは料理は作れない。台所の機械に何がほしか言えば、5秒で出てくる。それを、あたかも女が作ったかのようにながら食べる。

朝は、女に見送ってもらった。まあ、どうせ後から女もついてくるのだが。そういえば、キスというものをどこかで聞いた気もする。だが、どうするのかは忘れてしまった。

そして、今日もまた会社に来て、いつもどおりの場所で、いつもどおりの仕事をして、いつもどおりの時間が過ぎる。

そして、60歳で定年するくらいまで生きるのだろうか。

——ああ、私たちを作った真人間たち、どうせなら、「退屈」という感情も消してくれたらよかったのに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1685k/>

奴隸

2011年1月26日06時42分発行